

## 1 学校教育目標

○進んで考える子      ○仲よく助け合う子      ○心と体をきたえる子      ○最後までやりぬく子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	生きる力を身に付けさせる学校	○学びの楽しさや喜びを発見できる学校	○豊かな人間性を培う学校
		○健やかな心身を育む学校	○地域・家庭から信頼される学校
○児童・生徒像	知徳体の調和のとれた児童	○主体的に学び、自分の考えをもち、表現できる児童	○豊かな心で自己と他者を認め、高め合える人権感覚の備わった児童
		○心身ともに健康でたくましい児童	○何事にも意欲的に挑戦し、粘り強く努力する児童
○教師像	使命を全うできる教師	○専門職として優れた知識や技術を備え、意欲的に研鑽に励む教師	○児童を大切にして、大人として手本となれる社会人
		○教育課題に適切に対応できる責任感と実践力を身に付けた教師	

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

前年度の休校措置期間から始まり多くの予定変更や中止、感染防止医向けの新しい生活様式など環境の激しい変化の中でも、児童一同が健気に学校生活を送ることができた。そこには、教職員の努力もあるが、家庭の学校への理解と協力姿勢があったからこそという思いが強い。家庭・地域・学校の日常からの連携の重要性を改めて認識させられた1年であった。本年度も児童一人一人を見つめ、その家庭とも繋がりながら児童の知育・体育・徳育についての向上を目指したい。学習面では、安定した基礎力の定着と更なる向上を目指す。一人一台タブレット配布のGIGAスクール構想に即して、ICTを効果的に活用した授業作り、DX（デジタルトランスフォーメーション）での分析対応などの取り組みも目指したい。そのために日々授業改善に取り組む教員の授業力向上への研究も推進する。体づくりの面では、一昨年より続いているコーディネーショントレーニング地域拠点校としての経験値を生かし、脳と体のリレーションを重視し学力と道徳的実践力に結びつく体力育成を行う。そして子どもたちの豊かな心を育てていきたい。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	人権感覚を備えた豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	健やかな心身の成長を促す体力向上	○	○	○	○	○

## 5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
全学年区調査通過率 80%以上 都・全国調査で平均点を上回る		区調査通過率		全校 2科 80.8 国 81.7 算 79.9		学年による較差(例: 国 95⇔65)の解消		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	教員の授業 力向上	重点教科 国・算	通年	3～4人編成グループでの OJT研修と指導法研究	単元テスト	正答率90%以上	教員間での授業力への 意識は定着化傾向	意識を具現化できる 課題解消への展開	○
2 新規	ICTの活用 DXの取組み	全科	通年	全教員の共通認識をもとに ICTの活用とDXへの意識	単元テストや 単元振り返り	児童の肯定的評価	教員・児童ともに抵抗感 は少なかった	効率化と効果の方向性 の共通化	○
3 継続	朝学習 朝読書	国・算 読書	火・木曜 水曜	担任指導 漢字ドリル・算 ベーシックドリル 等	確認テスト	漢字・計算共に 90%以上の正答率	ベーシックドリル正 答率90%以上の学年 は1であるが、全学 年において定着率を 上げている。	学年や学級が単独で 取り組むのではなく、 全教員による共通 認識を持つことで 進歩が見られた。	○
4 継続	放課後補充 教室	国・算	月火金 30分	全教員 国算ベーシックドリル	定着テスト	目標値通過			△
5 継続	サマー スクール	国・算	夏休み 80分を 10日	全教員 プリント使用で 基礎力の定着を目指す	夏休み終了後 の確認テスト	受講前より正答 率の上昇	コロナ感染対応によ り中止	代替措置を企画実践 する教員対応が必須	○
6 継続	家庭学習の 推進	国・算を 主に	通年	小中連携活動のテーマで算 数を重点に指導	実施状況と学 力との相関	提出点検・家庭 との連携	コロナ禍で家庭学習 の重要性を児童・教 員ともに認識した。	タブレットの効率的 活用への取組み。	△
7 継続	図書館活用	全教科	通年	調べる学習・読み聞かせ・ブ ックトーク・ビブリオバト ル・読書感想文	参加状況	各種方面の活性 化状況	図書館活用率が増え 関連活動が増えた	6年でのビブリオバ トルの実施など新し い取組みが増えた	○

8 継続	各種検定	国・算・英	通年	漢検・算数検定・英検への受験とそれまでの学習会 開かれた学校づくり協議会	受験状況と結果	受験者の80%以上の合格	コロナ禍により漢検のみ実施。60名受験	(結果発表は後日)	△
---------	------	-------	----	---	---------	--------------	---------------------	-----------	---

<b>重点的な取組事項－2</b>	人権感覚を備えた豊かな心の育成
-------------------	-----------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自分を大切に 他者を尊重する心の育成	学校関係者評価において90%以上の児童が肯定的意見を示す	いじめや人間関係の現状については90%以上が肯定的回答を示す。	些細な変化や声に出ない訴えを見逃さない。	○

<b>B 目標実現に向けた取組み</b>
----------------------

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権尊重教育	学校関係者評価で90%以上の児童が人間関係に肯定的	人権プログラムを活用した道徳授業の充実と日常でのコミュニケーションスキル向上	週に1回の道徳授業は、学年内の学級間で進度を合わせて行うことができた。90%以上は肯定的回答	肯定的回答は、学級によって差が生じている問題への対策が必要。	○
異年齢集団活動等の体験機会の実践	人間関係・学校生活に対して肯定意見90%以上	仲よし班活動、クラブ、校外学習、幼保小中連携の異年齢交流	仲よし班活動やクラブを通して各年齢の果たすべき立場についてとらえ、実践に移すことができた。	思いやりの心を持ち、責任ある姿勢作りへの適切な場面であった。	○
ボランティアマインドの醸成	学校生活に対して肯定的意見90%以上	オリンピック・パラリンピック教育交流会、道徳授業、クリーン運動、ユニセフ活動	地域清掃やユニセフ等の募金活動を通して、奉仕の心や助け合いの精神を培う実践が定着した。	押しつけの善意ではない、真の支え合いを理解させたい。	○

<b>重点的な取組事項－3</b>	健やかな心身の成長を促す体力向上
-------------------	------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
スポーツに親しみ健康を意識できる姿勢を培い、体力向上を目指す。	個々の能力が全国平均を上回ることを目指す。体育好き児童90%以上	全国体力調査の結果において、立ち幅跳びが全学年で平均を下回った。	筋力・バランスについて育成が必要。	○

<b>B 目標実現に向けた取組み</b>
----------------------

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
コーディネーショントレーニングの定着	体力測定記録の向上	体育授業や朝の時間に取り入れる	日常生活内に取り入れ、並行して運動を身近なものへの狙いで室内エキセサイズなども実施した。	全職員の共通認識の下で実施することができた。	○

外部人材活用による専門的指導と交流	体力測定記録の向上	短縄とび・長縄（ダブルダッジ）・投力・持久走 等	多くの交流活動は難しかったが、縄跳び藤沢氏の指導を受けるなどいくつかの交流はおこなえた。	体育指導員や足立工業生徒等の支援によって体育行事を運営できた	○
体育授業の充実と外遊びの推進	体育授業・外遊びへの肯定的児童意見 90%以上	体育指導法の教員研修 スポーツ朝会や中休みの体育的活用	50m走の記録が全国平均を上回って、外遊びの効果として関連していると考えられる。	瞬発力と持久力の両面を備えられることを目指したい。	○

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

確かな学力（基礎力の定着）は、心の安定につながり落ち着いた生活に繋がる。児童が学びの喜びを知ることにより、さらに学習への指向を高めていくというプラスの循環を発生させるためのキーマンとして教員の存在がある。その責務について一人一人が新たな側面から自覚をもち、日々授業改善に努める教師像を目指して、教員間の研修や学びの空気が根付き始めた1年であったと思われる。コロナ禍の制限が多い中、校内外で研修を積む教員も多く、明海大学の支援を受けた英語指導研修では10回近くの研修会に全教員が毎回参加することができた。

爽りある授業を実感させられる教員の脂質としては、教科のみの研鑽ではなく、児童や地域・保護者への状況把握力も高く適切な対応力も必要とされるため、生活指導能力の向上も重要である。学習指導力と同時に対応力や折衝能力についての向上も今後は意図的に目指して研鑽に励む必要があると思われる。

自らの心と体を大切にしてお互いを尊重できる人権感覚を培わせることは、未来を生きる子どもたちへの必須事項である。SDGs への正しい理解を通して、視野の広い実践的な姿勢を持てる子どもたちの育成を目指していきたい。また、GIGAスクール構想に根ざしているIT人材の育成に向けた足がかりとして学校の役割も認識しておかなければならない。他にも英語教育や心の育成の充実など取り組むべき課題は多いが、子どもたちの手本となる身近な大人として教職員一同で前向きに明るく実践していきたい。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

昔から子どもは「元気でさえあればいい。」と言われております。確かにその通りです。まずは、心と体の健康が第一です。しかし、健康なら元気ならばなおさらそこにとどまるのではなく、次のステップに向かっていくことも大切です。教科の学習、道徳心を身に付ける、体力を高めるといった「知徳体」の均整のとれた充実を目指して、教職員一同取り組んで参ります。

### (3) その他（学校教育活動全般について）

新型コロナウイルス感染状況の不安定さや巨大地震の発生予測、想定外な規模で見舞う気候変動など不安要素は多い。しかし、その都度煽られるような空騒ぎをするのではなく、冷静にかつ着実に判断行動のできる良識ある社会人として通用する人材育成を行う使命が学校にはあると、本年度は改めて認識させられた。